

令和8年度第3回松戸市教育振興審議会

日 時 令和8年10月20日(火) 15:00～

場 所 松戸市教育委員会 5階会議室

次 第

1 議事

- (1) 令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に係る
点検及び評価について（答申）

（配布資料）

資料1

意見整理表

資料2

答申書（案）

No.	ページ	項目	内容	回答	反映	論点	出所	提言方向性
1	15	千葉県市町村教育委員会連絡協議会（定期総会報告）	担当職員の参加についてのコメントがあるが、委員に加え関係部署の職員は参加した方がいいのでは。	同協議会が教育長及び5人の教育委員で構成される教育委員会の相互の連絡協議を図ることを目的としているため、事務局職員への開催案内は出されておられません。	×	-	事前意見	-
2	16, 17	市町村教育委員会研究協議会	全6回のうち3回参加した記載があるが、3回程度の参加により目指す成果が達成されるのであれば、その点を記載したほうがよいのではない。見方次第で我慢と読み取られる恐れのある記載である。	この協議会は前期（第1回～第3回）と後期（第4回～第6回）に分かれており、前期・後期それぞれの中で1回ずつ参加可能なものとなっております。誤解を招く記載となっているため、次年度以降は参加条件についても追記いたします。	○	（22）記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
3	30	歴史や文化に触れる機会の提供「出張ミニ展覧会」の開催	「課題」で会場側の負担軽減・展示作業簡素化とあるが、問題とすべきことがあったのか？	会場側の負担としましては、他イベントとのスケジュール調整、展示準備のための休館日の対応（搬出入立会い・開設）、展示に適したスペースの確保、展示中の安全管理（来場者、作品の見守り）など通常業務に無い対応があげられますので、各施設には引き続きご理解・ご協力をいただきながら事業を推進してまいります。	○	（22）記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
4	31	子どもたちが多様な体験をできる機会の提供	「成果」としてどの講座も満足度が高い結果とあるが具体的な数値をいれたらどうか。	今後は参加者アンケートの結果を反映してまいります。	○	（22）記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
5	31	子どもたちが多様な体験をできる機会の提供	課題の記載は、成果に記載すべきではないか。そうすると、課題は何か。限られた定員かつ好評行事であるため、YouTube等を活用して、体験型コンテンツを発信する等の検討を多くの方に疑似体験してもらう工夫があってもよいと思う。	ご指摘の項目は成果且つ今後の課題的側面もあるため、このような記載としておりますが、表記についてはご意見を取り入れたかたちで対応してまいります。動画等コンテンツの配信につきましては、今後内容を鑑み、対応について考えてまいります。	○	（1）参加・体験機会の充実	事前意見	各種講座やイベントの実施に当たっては、より多くの市民・子供たちが参加又は体験できるよう、実施方法の更なる工夫に努められたい。
6	35	特別展の開催	「課題」として学芸員の不足と理解できる内容が書かれているが、「今後の方向性」で全然触れられていないのは？	特別展の開催が本施策の事業内容となっている為、今後の方向性についても来年度の特別展の事業内容を中心とした記載と致しました。令和8年度以降の点検・評価報告書の作成に当たっては、「課題」と「今後の方向性」の対応関係が分かるよう記載方法を見直し、より分かりやすい報告書となるよう改善いたします。	○	（22）記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
7	36	まつと吹奏楽応援団(楽器の寄附)による吹奏楽・管弦楽活動の支援	（楽器の寄附について）物価高の現在、寄付というよりもフリマサイト等で手軽に個人で楽器を売りに出す方が多いと思います。寄付に目を向けてもらうには、寄付した先で、楽器がどのように生かされているのかを目にする機会も大切だと思います。例えば、寄付していただいた方には、小中合同音楽会や教育委員会主催の催し物等、1公演にご招待するなど寄付した成果が見える取り組みも考えてみてはいかがでしょうか。	現在の取り組みとしましては、寄附をいただいた方へ「旧徳川家松戸戸定邸」及び「博物館」の入館チケット及び児童生徒の感謝のメッセージ集を送付しております。いただいたご意見を参考にさせていただき、音楽関係のイベントへの招待を検討いたします。	○	（3）楽器寄附事業の推進	事前意見	楽器寄附事業については、寄附者に対して寄附した楽器の活用がわかるよう講演会に招待するなど事業成果が伝わるよう工夫し、継続的な支援につながる取組を進められたい。
8	37	学びの拠点の機能の充実と整備（文化ホール）	成果としては、利用者が増加しているものの、課題において、有効活用ができておらず利用者が限定的とある。その点、そもそも、活用方針が施設にあっていいのかと疑問に感じる。	文化ホールは、市民ギャラリー、生涯学習サロン、子育て世帯や青少年の居場所など多様な利用が進む一方、個別利用にとどまり、施設本来の目的である「文化活動の推進」との連動が限定的であると感じています。今後はクリエイティブラボの新設や社会実験を通じて、各機能を有機的に結び直すことで、市民の交流、創作、表現といった本施設にふさわしい文化的な学びの拠点を目指してまいります。	○	（4）文化施設の有効活用	事前意見	文化ホールについては、施設本来の目的である文化活動の推進を踏まえ、市民の交流や創作活動につながる施設の有効活用を推進されたい。
9	38	家庭教育支援の推進	（就労している保護者や外国籍の保護者の参加促進）講座の内容が動画に残せるものは、アーカイブとして残しておき希望する保護者には限定配信等で視聴できるようにしてみたいかがでしょうか。参加した方も親返しが可能であったり、外国籍の方も翻訳機能で自分のペースで理解できるのではないでようか。	講座内容を視聴者限定で動画配信することは、当日参加できなかった学級生への学習機会の提供や参加者が後から内容を振り返ることができるなど学びを広げる方法として有効であると考えます。一方で録画に必要な機材の準備や撮影、編集、配信に係る作業、配信環境の確保など、実施に当たっては一定の負担が生じます。家庭教育学級は学級生が自主的な学習の場として運営していることから新たな取り組みにより過度な負担が生じることが無いよう留意する必要がありますので、各家庭教育学級の状況を鑑みながら検討させていただきます。	○	（2）家庭教育支援の推進	事前意見	家庭教育支援の推進に当たっては、就労している保護者や外国籍の保護者など、多様な家庭の状況に配慮しながら、デジタル技術の活用を含め、学習機会の充実に努められたい。
10	40	市民の文化・芸術活動の充実と支援	課題において、コロナ禍の影響に関する記載があるが、コロナの影響がほとんどなくなったR7年度の課題の記載として適切だろうか。事実の記載にとどまっているので、他の記載を加えて課題が読み取れるとよい。	次年度より一部修正し、高齢化や団体の解散等現在抱えている課題を追記いたします。	○	（22）記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
11	43	山崎直子宇宙飛行士による天文教室の開催	定員の3倍の申込があり、当日の定員130名に対して参加者が110名であった。抽選のままでよいのか。例えばライブの301会議室は抽選とし、外れた人も当日の空き次第で、ライブに参加できたり、近隣の会議室等でパブリックビューイングのような同時配信で参加できる工夫はできないのか。	現状の対応として、抽選時に次点者を事前に定め、キャンセルがあり次第、順次繰上げ当選を通知しているほか、開催一週間前に当選者へリマインドメールを送信して当日参加率の向上を図っている。令和7年度は当日にキャンセル又は参加予定人数の変更で参加者が110名となり、講演時刻まで確定人数が把握が難しい状況である。講演後の質問コーナーで、山崎氏が質問する子どもの前に来て受答えをすることから、別室での対応や配信の技術的な課題等が考えられるが、より多くの市民が参加できる方法について、検討していきたい。	○	（1）参加・体験機会の充実	事前意見	各種講座やイベントの実施に当たっては、より多くの市民・子供たちが参加又は体験できるよう、実施方法の更なる工夫に努められたい。
12	46	小中学校における外国語科の授業改善	実施状況から、主な対象から児童生徒を削除したほうが良いと感じた。	実施状況には教職員を対象とした取り組みが主に示されておりますが、本施策は、授業改善を通して児童生徒の学びを深めることを目的としたものです。このことから、取り組みの担い手である教職員に加え、その成果が還元される児童生徒も主な対象としております。	×	-	事前意見	-
13	47	総合的な学習の時間での学びを切り口とした「主体的・対話的で深い学び」の実現	実施状況から、主な対象から児童生徒を削除したほうが良いと感じた。	実施状況には教職員を対象とした取り組みが主に示されておりますが、本施策は、授業改善を通して児童生徒の学びを深めることを目的としたものです。このことから、取り組みの担い手である教職員に加え、その成果が還元される児童生徒も主な対象としております。	×	-	事前意見	-

No.	ページ	項目	内容	回答	反映	論点	出所	提言方向性
14	48, 49	教育DXの推進	「事業内容」と「実施状況」が対応していないため分かりづらい。	本事業は複数の課が連携して実施しているため、「事業内容」については課ごとの取組を記載しました。一方で、実施に当たっては課を横断した対応が必要となることから、「実施状況」は事業全体の取組として記載しており、その結果、「事業内容」と「実施状況」の対応関係が分かりにくい記載となっていました。 令和8年度以降の点検・評価報告書の作成に当たっては、「事業内容」と「実施状況」の対応関係が分かるよう記載方法を見直し、より分かりやすい報告書となるよう改善いたします。	○	(22) 記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
15	48, 49	教育DXの推進	教務支援システムの整備、児童生徒や教員が使用するタブレット端末の整備に尽力いただきありがとうございます。 先日の大雨の際、「松戸市の安心・安全メール」の内容を、学校から保護者へ流してほしいという依頼があった。可能な範囲で書いてあったが、実情としては、どの学校も対応した。対応しなければ、「A校はやっていたのに、B校はやっていない…」ということになってしまい、対応せざるを得ない。前回のケースは危急の対応であることは理解しているが、気候状況の変化に伴い、千葉県においてもこういった豪雨が今後も予想されるのであれば、市から直接保護者へ連絡をする方法について、進めて欲しい。	市教育委員会から、市内小中学校の保護者に直接連絡をできるようなシステムの導入を検討しており、予算要求をする予定です。	○	(5) 教育DXの推進	事前意見・第2回会議	教育DXの推進に当たっては、デジタル技術を効果的に活用し、学校の業務負担軽減及び教育委員会、学校、保護者間の情報共有体制の充実を図るとともに、教職員の指導力向上や校内研修、実践共有を通じた授業改善を推進し、児童生徒の学びの質の向上に努められたい。
16	48, 49	教育DXの推進	「成果」の部分で「特に、他者と考えを共有しながら学びを深める協働的な学習が進展している。」とある。具体的にどのような事例があり、「進展」をどのようにとらえているのか。また、「課題」にある「活用の内容や深度に差がみられ」「思考の進化につながる活用にはばらつきが」に対して、具体的な改善の指針を伺いたい。	一人一台端末を活用し、即時的に他者の考えを参照することにより、自身の考えを修正したり、視野を広げたりする姿が見られています。授業の主な展開の部分だけに限らず、導入場面での簡単な意見共有や授業のふりかえりの共有も行われています。「進展」とは、「形式的な協働にとどまらず、教員が協働することのねらいを意識した実践を行っている」と捉えています。課題に関しましては、一人一台端末の活用が進んでいる学校の事例を周知したり、学校間で授業を見合える仕組みを整えたりすることで、教員の授業改善に結び付け、思考の深まりにつながる活用を進めてまいります。	○	(22) 記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
17	48, 49	教育DXの推進	「課題」の部分で特に「思考の進化につながる活用にはばらつき」という課題を挙げているが、恐らく学校ごとにばらつきがあると感じていて、進んでいる学校の事例を他の学校に周知されているようだ。一方、学校の中で推進している学級や教科があり、児童生徒が教科ごとにばらつきを感じてしまう現実もある。校内で同じ方向に向かわせるといったところについても、お考えがあれば伺いたい。	校内研修を深めるために、各学校には研究主任がいます。その研究主任が中心となり、学校の子供たちの実態を踏まえ、子供たちが身につけるべき力として何が必要かということを研修で深めていただいています。なので、校内の中で、得手不得手あると思いますが、同じ方向で指導力の向上につながる研修を深めていただいています。 校内研修のみならず、学校でばらつきがございますので、他校の授業を実際に目で見て、肌で感じる必要があると思っています。他校での研修も深めて、市内の教職員が授業力を高めていくということを進めております。	○	(5) 教育DXの推進	第2回会議	教育DXの推進に当たっては、デジタル技術を効果的に活用し、学校の業務負担軽減及び教育委員会、学校、保護者間の情報共有体制の充実を図るとともに、教職員の指導力向上や校内研修、実践共有を通じた授業改善を推進し、児童生徒の学びの質の向上に努められたい。
18	50	「自分の人権を守り、他者の人権を守る」実践行動ができる子どもの育成	成果から課題へのイメージがしやすい。まずは学校、次に家庭と人権意識の波及を期待したい。	今後、学校生活全般において人権意識を育てていくとともに、地域・家庭を教育活動に取り込んでいけるよう努めてまいります。	○	(6) 人権教育の推進	事前意見・第2回会議	人権教育の推進に当たっては、学校における取組にとどまらず、家庭や地域における人権意識の醸成と理解促進に努められたい。
19	50	「自分の人権を守り、他者の人権を守る」実践行動ができる子どもの育成	周知の方法について、現状、限界があるではないかと事前に質問したところ、保護者への配布について回答をいただきました。現在の方法では、保護者と児童生徒にしか当たらないのかなと懸念しております。お子さんがいる家庭の方たちにも、人権を守る行動が大事だということを周知していくことも大切ではないのかと思います。人権教育は決して学校内で収まってはいけないことだと思いますが、そのことについて広報活動や構想などがありましたらお聞かせください。	学校教育分野としては、相談窓口等々詳しく記載されている「心のバリアフリーの実現を目指して」というリーフレットを学校に通知しておりますので、学校から保護者に周知すると同時に、松戸市版の人権リーフレットを、小学校5年生を対象に配布し、それについても発信しております。リーフレットの活用については職員にアンケートを取っており、概ね良好との結果が出ております。 生涯学習分野としては、例えば図書館では、人権週間にあたって所蔵している関連の図書を展示したり、社会教育課では、生涯学習講座として人権講座を行ったりしております。	○	(6) 人権教育の推進	第2回会議	人権教育の推進に当たっては、学校における取組にとどまらず、家庭や地域における人権意識の醸成と理解促進に努められたい。
20	52	防犯、防災、交通安全等への発達段階に応じた学校安全指導の充実	スクールガードの担い手不足という記載がある。実情としては確かにそうなのだが、子どもの安全を守ることについては、市民安全という観点から進めることが重要だと思う。他部署との連携についてはどうなっているのかなということを感じた。	市民安全という観点から日頃より、市民安全課と連携を取りながら情報共有している。市民安全課は防犯協会の事務局を担っているが、防犯協会の方のほとんどはスクールガードとしても活動いただいている。また、今年度、スクールガード等の活動に同行し、具体的な場面に応じて指導助言をしながら、各学校を巡回したり地域のつなぎ役になったりするスクールガード・リーダーを配置する予定である。人選等にあたり、警察や町会といった他機関と連携をして行っている。	○	(7) 学校安全の確保	事前意見	学校安全の確保に当たっては、関係部署及び関係機関との連携を図り、市民全体で安全を支える視点のもと、地域と一体となった安全体制の充実にも努められたい。
21	53	体力向上のための指導技術の向上と環境整備	「成果」のところで数値が入っているほうが明確になる。	数値が入っている方が明確になるかと思いますが、「体力」は新体力テストのみで判断することが難しい部分がありましたので、令和8年度は体力向上を図るために教職員の指導力向上に向けた内容といたしました。	○	(22) 記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
22	53	体力向上のための指導技術の向上と環境整備	成果において、使用禁止遊具の撤去率を記載し、課題において未達成の遊具に対する対応を記載したほうが良い。 水泳授業に関する記載がなく、水辺の事故から身を守る手だが家庭任せになっていないか心配である。その点、水泳に代替する取り組みについて、記載があるとよい。	100%の撤去を目指しておりましたが、修繕を含め多数あり、今後5年間かけて危険な遊具や体力づくり備品の撤去を進めてまいりますので、令和7年度においての撤去率の記載が難しい状況でございます。 水泳授業については、ろ過機の経年劣化等により、自校のプールが使用できない場合は、民間施設等のプールを使用し、学習の場を提供しております。しかしながら、直前に使用ができなくなった場合は、民間施設委託の提供が難しいため、座学にて水泳における「事故防止に関する心得」について学習を行うこととしております。	○	(22) 記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。

No.	ページ	項目	内容	回答	反映	論点	出所	提言方向性
23	53	体力向上のための指導技術の向上と環境整備	小・中学校のプールもやはり老朽化で機能しなくなってきました。そこで、水泳の授業はしなくなるのか、あるいは代替のものとして何か考えていращるのか。例えば、民間の施設を利用するなどいろいろな方法があるかなと思います。そのあたりのお考えを伺えますでしょうか。	水泳学習については、令和5年3月にプールのあり方検討会で方向性が出されました。プールの大規模改修が必要な場合は、改修はせず、民間委託や市のプールの活用、拠点校を探っていく、また、中学校におきましては、座学で命に関する学習を行う方向で進んでおります。民間や市のプール、拠点校方式ということでお話しさせていただきましたが、児童の安全を最優先に考えながら、どの水泳学習であれば持続的に実施できるかも検証しております。現在、民間委託で授業を実施している学校もございます。	○	(8)教育環境の整備・学校施設の老朽化対策の推進	第2回会議	教育環境の整備及び学校施設の老朽化対策の推進に当たっては、社会情勢や財政状況の変化を踏まえつつも、児童生徒に対する持続可能な教育活動の実現に向け、計画的な施設整備の推進に努められたい。そのことが、災害発生時に避難所としての機能を発揮し、地域住民の安全・安心の確保にもつながる。
24	55	小中学校給食の安全安心な配膳環境の整備	事業内容の最初の2行は、目指す成果/目標に関する記載と理解してよいか。	そのとおりです。	×	-	事前意見	-
25	57	図書館整備計画の見直し	62頁までの図書館の記載に横断する意見です。施設の開館時間延長、巡回図書貸出の工夫が読み取れる。高齢者や障害者へのアウトリーチにつながる取り組みの検討がさらに進めばよいと思う。民間(町の商店等)に協力してもらい、気軽に図書の貸し借りができる拠点を作る等の工夫ができないか。他の自治体の取り組みも気になる。蔵書を活用する手段が多様であるとういと思う。	図書館整備計画及び各種関連計画との整合性を図りながら、今後の社会の変化も見据え、他市の様々な取り組みも参考にし、より質の高いサービスの提供に努めていきたい。	○	(9)図書館サービスの充実	事前意見	図書館サービスの充実に当たっては、高齢者や障害者をはじめ、多様な利用者が図書館サービスを利用できるよう、アウトリーチのあり方を含めた蔵書活用手段の多様化について調査研究を進められたい。
26	59	図書館資料の充実	目指す成果/目標において人口40万人以上の自治体を統計の基準にしているが、人口50万人以上を基準にすべきでは、策定年度の事情で変更できない記載であれば、他の記載でフォローがあるとよい。	全国の公共図書館状況と比較する際、利用している日本図書館協会発行の「日本の図書館 統計と名簿」で、松戸市は人口段階別で「40万人以上の自治体」として扱われていることによりますが、ご意見もふまえ、今後の市の人口の推移をみながら検討してまいりたい。	○	(22)記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
27	63	千駄堀地区3館連携文化交流事業の推進	21世紀の森と広場の利用者は数年前に比べると増加している。3館の連携をさらに進め、魅力ある文化的なイベントを推進することで、松戸の魅力の向上につなげてほしい。	多くの方にご来場いただけるように、各館主催事業に相互に連携、協力してまいります。	○	(10)文化施設間連携の推進	事前意見	文化・芸術活動の推進に当たっては、各施設の特性を生かしながら施設間の連携を一層推進し、市民が文化に触れる機会の更なる充実に努められたい。
28	66	学区の適正化および学校選択制の検証	学区の適正化は、学校が地域と密接に関わっていることから、たいへん難しい課題であるのかと思う。これに関しては、市民一人一人の立場や考え方の違いから、全ての方に納得のいく形というものが取りにくいものの一つなのかなと思う。変更が生じる場合は、その必要性等について、しっかりとした裏付けをもって、関係の学校や地域住民に丁寧に説明していく必要がある。令和8年度においても、そのように進めてくださっていると認識している。よろしくお願いたします。	通学区の見直しについては、地域との関わりも深く、様々なご意見があると認識しております。そのため、変更にあたっては、その必要性を十分に検討した上で、関係する学校や保護者に加え、地域関係者に丁寧に説明していくことが重要であると考えております。今後におきましても、こうした考え方のもと、必要な手続きを踏まえながら、関係課と連携しながら対応してまいります。	○	(11)学区の適正化	事前意見	学区の適正化に当たっては、引き続き、その必要性や効果について十分な検討を行うとともに、関係する学校、保護者及び地域関係者への丁寧な説明に努められたい。
29	67	まつと日本語指導システムの改革	「事業内容」の項目に対して「実施状況」に記載していないのは実施できなかったということ？	実施状況に記載のない事業内容につきましても、実施しているものや現在も継続して取り組んでいるものがございます。そのため、記載がないことによって実施できなかったということではございません。今後につきましては、実施状況や進捗がより伝わりやすくなるよう、記載内容の工夫を検討してまいります。	○	(22)記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
30	67	まつと日本語指導システムの改革	多様なニーズへの教育への対応は、新たに振興基本計画でも大きな目標の一つである。増え続ける日本語指導を必要とする児童生徒への対応として、「教育課程の中に日本語指導を位置づけることができた」とあるが、その内容と今後の方向性を伺いたい。	『日本語指導を必要とする児童生徒一人一人の状況に応じて、「特別的教育課程」を編成し、学校の教育活動の一環として計画的、継続的に指導を行う』ということです。にほんごルームや通級による指導では、学校生活や教科学習に必要な日本語を段階的に指導するとともに、学校との情報共有を図りながら在籍学級での学習につなげております。今後も、一人一人の状況に応じた指導体制の充実に努めてまいります。	○	(12)日本語指導の充実	事前意見	日本語指導を必要とする児童生徒の増加を踏まえ、一人一人の状況に応じた支援体制の充実に努めるとともに、指導人材の確保及び教育環境の整備を進めながら、継続的かつ計画的な日本語指導の推進に引き続き努められたい。
31	67	まつと日本語指導システムの改革	まつと日本語教育システムの改革については、今のような困難を抱えていて、どういう方向で改善、推進していこうと思っているのかを伺いたい。	外国籍の児童生徒は年々増加しております。日本語指導をする人材の確保、教育環境の整備が課題でございます。日本語指導が必要な子供への対応については文部科学省も動いております。それも考慮しながら子供たちの教育環境をさらに整えてまいります。松戸市では、現在、編入前に集中して学ぶという「ブレスクール」、また小学校においては15校に「にほんごルーム」を設置しております。今後、「にほんごルーム」の拡充を目指しておりますので、人材を確保しながら配置していきたいと考えております。	○	(12)日本語指導の充実	第2回会議	日本語指導を必要とする児童生徒の増加を踏まえ、一人一人の状況に応じた支援体制の充実に努めるとともに、指導人材の確保及び教育環境の整備を進めながら、継続的かつ計画的な日本語指導の推進に引き続き努められたい。
32	68	幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ	課題に「各校が幼児教育の理解を進め、スタートカリキュラムを作成する必要がある」とありますが、これはとても大切なことだと思います。一方で、送り出す側である幼児・子ども園においても、小学校教育への理解が必要だと感じます。小学校だけでなく、幼児・子ども園と小学校の双方が協力して進める、松戸市独自のスタートカリキュラムに期待しております。	幼児教育と小学校教育の円滑な接続を実現するためには、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校が相互に理解を深め、連携していくことが重要であると認識しております。現在、幼児教育課と保育園との連携、情報共有を行うとともに、子供の育ちや学びの連続性を意識した取り組みについて共通理解を図っております。今後は松戸市版スタートカリキュラムの活用を通して、幼児小が協力しながら子供の学びの連続性を高めてまいります。	○	(13)幼児小の連携	事前意見	幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けては、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校が相互理解を深めながら連携を推進し、子どもの学びや育ちの連続性を確保するとともに、一人一人が安心して学校生活をスタートできる環境づくりに努められたい。
33	68	幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ	現場の肌感覚として、新入生の学校生活への不適応が、変わってきていると感じている。不適応の理由が、学校が嫌とか友達を嫌とかではなく、何か別のものになっている。おそらく子供自身も何が原因かわからず、「パパがいい」「ママがいい」という言葉になって表出するケースが多いと感じる。現場と行政の知見により、こうした状況が少しでも改善していければと思っている。	近年、新入生の学校生活への不適応については、その背景や要因が多様化しているものと認識しております。子供たちが安心して学校生活をスタートできるよう、幼児期の育ちや経験を小学校教育へ円滑につなげることがますます重要になってきております。今後は幼児教育課・保育園と連携をし、現場の知見を共有しながら、幼児小の連携や松戸市版スタートカリキュラムの活用を進め、円滑な接続と連続性のある学びの実現に努めてまいります。	○	(13)幼児小の連携	事前意見	幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けては、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校が相互理解を深めながら連携を推進し、子どもの学びや育ちの連続性を確保するとともに、一人一人が安心して学校生活をスタートできる環境づくりに努められたい。
34	69	効果的なスタッフ派遣事業の推進	市派遣の人材(スタッフ、特別支援関係、日本語指導、スクールアシスタント等)は、学校運営に大きく関わってくださっている。引き続きの支援・対応をお願いします。日本語指導の重要性が高まっている。	にほんごルーム設置の拡充を目指しております。今後も「にほんごルーム」には日本語指導補助員を配置し、日本語指導の充実に努めます。	○	(12)日本語指導の充実	事前意見・第2回会議	日本語指導を必要とする児童生徒の増加を踏まえ、一人一人の状況に応じた支援体制の充実に努めるとともに、指導人材の確保及び教育環境の整備を進めながら、継続的かつ計画的な日本語指導の推進に引き続き努められたい。

No.	ページ	項目	内容	回答	反映	論点	出所	提言方向性
35	73、96	部活動の地域連携に関する方針の策定 子どもたちのスポーツ、文化・芸術活動を支えるための地域の人材や団体との連携	松戸には文化、スポーツともに松戸で育ち、才能を発揮している方々が多くいます。地域展開を模索するにあたり、民間事業者への外部委託になったとしても、松戸の人材を生かして発展につなげてほしいと思います。	本市にはスポーツや文化芸術など様々な分野で活躍する優れた地域人材がおります。先進自治体においては、地域人材バンクの整備や、地域クラブの指導者として地元で活躍する人材を積極的に活用する取組が進められているものと承知しております。本市におきましても、部活動の地域展開を検討する中で、民間事業者への委託等を行う場合であっても、本市の人材や地域の力を生かしながら、子どもたちの活動の充実と地域の発展につながる仕組みづくりを進めてまいりたいと考えております。	○	(14) 部活動の地域展開	事前意見	部活動の地域展開に当たっては、他自治体の取組事例も参考にしながら、本市の実情や地域特性を踏まえ、有識者、保護者等の意見を十分に聴取し、計画的に検討を進められたい。また、本市の人材や地域資源を積極的に活用し、子供たちの活動の充実と地域の活性化につながる取組を進められたい。
36	73	部活動の地域連携に関する方針の策定	課題において、課題が多岐にわたるのと記載は妥当か。課題に触れていない。 文部科学省は部活動の地域展開を進めようとしていますが、学校に身近にいる者としては課題がたくさん見えてきていて、そう簡単に地域に展開できないなっているのが実際のところなので、もう少し具体的に課題の記載があった方がよいと思いました。	部活動の地域展開における多岐にわたる課題とは、例えば指導者の確保や、活動に要する費用負担のあり方、活動場所への移動手段や安全面の確保、教職員の関わり方などに加え、部活動が担ってきた教育的意義や居場所としての機能をどう継承していくのか、などを指します。今後、具体が伝わる記載を心がけてまいります。今後の課題を整理した中で、受け皿の方や指導者を派遣している方を含めて懇談会を開催しながら、今後の松戸市にとってどのような地域展開が望ましいのかという議論をしていきたいと考えているところでございます。	○	(22) 記載内容の充実	事前意見・第2回会議	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
37	73	部活動の地域連携に関する方針の策定	地域展開にあたっては、完全に地域に展開するのか、それとも一部学校が入るのか。柏市は完全に地域に委ねているようですが、柏市をモデルにしていけるのか。柏市にも課題があるようですが、そのあたりのお考えを聞かせていただけますでしょうか。	1つの目安として、国では令和13年度までを目途にするということで、本市においても、他自治体の状況や地域性等を踏まえ、様々な課題がありますので慎重に検討していきたいと考えております。そうしたところを踏まえまして、課題を整理したうえで、論点をいくつかに絞らせていただいた中で、有識者、保護者などを含めた懇談会でご意見を伺い、実証事業等やりながら検討していきたいと考えているところでございます。現状としては、平日休日いっぺんにやるのか、土日だけやるのかといった方針自体も今はまだ決め打ちはしない中で、ご意見を伺いながら検討していきたいと考えております。	○	(14) 部活動の地域展開	第2回会議	部活動の地域展開に当たっては、他自治体の取組事例も参考にしながら、本市の実情や地域特性を踏まえ、有識者、保護者等の意見を十分に聴取し、計画的に検討を進められたい。また、本市の人材や地域資源を積極的に活用し、子供たちの活動の充実と地域の活性化につながる取組を進められたい。
38	76	学校における教職員の働き方改革の推進（学校現場の業務改善と多忙化解消）	時間外在校等時間の短縮とメンタルヘルスの相関性が気になる。時間短縮が進む一方で職員のスプレッドが広がっているのではなく、本来の目的に沿った時間短縮であるかとわかるように。	学校における働き方改革では、教職員が子供と向き合う時間を確保することが大きな目的の一つであり、単に時間外在校等時間を短縮することではなく、教職員のやりがいなども踏まえながら業務の削減に取り組む必要があります。	○	(15) 働き方改革の推進	事前意見	学校における働き方改革の推進に当たっては、時間外在校等時間の短縮のみを目標とするのではなく、教職員の業務実態や働きがいにも配慮しながら、教職員が子供と向き合う時間の確保につながる取組を進められたい。
39	76	学校における教職員の働き方改革の推進（学校現場の業務改善と多忙化解消）	超過勤務の先生方の割合が減少傾向にあるのは大変喜ばしいことだなどと思いますが、一方で、持ち帰っているかどうかの確認もしていただけたらいいと思います。私が以前勤めていたところは、時間になると学校の電気が消されて出ていかなければならなくなります。そうなるとうみんな持ち帰り、家で仕事をします。外的な圧力で教員の働きたいという意欲を止めるべきではないと思いますし、授業準備が果たして時間内で収めるべきことなのかという一つの視点としてあると思いますが、働きたいと思っている先生方の思いを潰すという方向に行ってしまうのではないかと思います。持ち帰りの仕事があるのかなのか、仕事量が多いのか少ないかというのは、時間を決めただけで見えないものだと思います。ぜひ今後、大規模な調査ではなくて良いとは思いますが、先生方がどれくらいの家に持ち帰って働いているのかなど、そのような調査をしていただけたら嬉しいなと思います。	教育委員会として持ち帰り仕事の把握まではしていませんが、学校現場においては、教員がテストやノートを持ち帰る際は、個人情報保護の観点からも管理職に報告のうえ記録をしております。個人情報に関わらない教材研究等の把握までは至っておりますが、管理職としては先生方の仕事量の把握は大切ですので、ご意見としてこの先につながるように検討してまいりたいと考えております。	○	(15) 働き方改革の推進	第2回会議	学校における働き方改革の推進に当たっては、時間外在校等時間の短縮のみを目標とするのではなく、教職員の業務実態や働きがいにも配慮しながら、教職員が子供と向き合う時間の確保につながる取組を進められたい。
40	78	教職員（講師を含む）の指導力育成	「実施状況」のところ、「事業内容」をそのまま記すのではなく、1年目～校、2年目～校。指導主事派遣～件のようにしたほうがよいのでは？	実施状況欄の記載方法につきまして、具体的な数値実績を示すことも分かりやすい方法であると存じますが、本事業につきましては、各年度における取り組みである「具体的な内容や性質」の評価・検証を捉えやすくするため、事業内容を中心に記載しております。今後につきましては、ご指摘いただいた視点も踏まえ、数値データ等も交えながら、より事業効果が伝わりやすい記載の工夫について検討してまいります。	○	(22) 記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
41	78	教職員（講師を含む）の指導力育成	課題に「自発的な受講環境の確保」とありますが、大学やその他の機関でも、オンラインで受講できるさまざまな講座が開かれています。教職員が自身の課題や関心に応じて、必要だと感じたときに気軽にアクセスし、学ぶことのできる環境が整うことで、より自発的な受講につながるのではないのでしょうか。	教職員が自身の課題や関心に応じて必要な講座へ主体的にアクセスし、学ぶことができる環境を整えることは、自発的な受講を促進する上で極めて重要であると認識しております。研修奨励日を設け、他校の実践観察や校内研修に充てるための「時間の確保」を促しているところでございます。	○	(16) 教職員の学びの充実	事前意見	教職員の資質・能力の向上に当たっては、教職員が自身の課題や関心に応じて主体的に学ぶことができるよう、研修機会の充実や学びやすい環境づくりに引き続き努められたい。
42	79	「ストレスチェック」を活用した教職員のメンタルヘルス対策の推進	受検率が9割であること、高ストレス率が9.1%は全国平均よりも良好であるが、面接希望者が1名のみは極端に低い値と云えないか。ストレスチェックの主旨である「自己のストレスへの気づき」になるように、そして相談につながらない職場とならないように意識改革と制度改革が必要ではないか。	今年度、面接指導の実施希望を月の在校等時間が80時間以上の教職員だけでなく、職員自ら疲労の蓄積や心身の不調等で医師との面接を希望できる機会を毎月設けた。それにより面接に対し興味を示す教員が増えており、問い合わせが増えている。また、医師への面接希望者は少ないものの、各学校の管理職が丁寧に聞き取って対応したり、業務改善を図ったりすることで、学校内で解決している事例が多く、数値として上がっていないこともある。今後についても、教職員が面接指導医の面接を受けやすい環境づくりを推進する。	○	(17) 教職員のメンタルヘルス対策の充実	事前意見	教職員の心身の健康保持増進に向けては、ストレスチェックの活用を通じた早期の気づきを促すとともに、教職員が安心して相談しやすい環境づくりや支援体制の充実にも引き続き努められたい。

No.	ページ	項目	内容	回答	反映	論点	出所	提言方向性
43	79	「ストレスチェック」を活用した教職員のメンタルヘルス対策の推進	職員からの希望で面接できる機会を毎月設けたことで、面接に対して興味を示す教員が増えているというのだが、実際に面接に至った教員は増えたのかどうかを伺いたい。	今年度、教職員が相談しやすい環境づくりとして、時間外在校等時間が80時間以上なくても、希望があれば長短にかかわらず、産業面談につながるよう見直しを図ったところでございます。改めて学校の管理職においては、今回をきっかけに、自校の職員の健康状態を把握するとともに、相談しやすい環境づくりに取り組んでいただいております。 実際にこの改定を行ったところで、まだ面接には至っていませんが、問い合わせ等は昨年度に比べて増えているところでございますので、産業面談のハードルが下がるような形で推進していきたいと考えております。 併せて、安全衛生委員会でも、学校視察を行った中で、働き方改革につながるような、良い取り組みを実施している学校の事例などを周知することで、教職員の意識改革を推進してまいりたいと考えております。	○	(17)教職員のメンタルヘルス対策の充実	第2回会議	教職員の心身の健康保持増進に向けては、ストレスチェックの活用を通じた早期の気づきを促すとともに、教職員が安心して相談しやすい環境づくりや支援体制の充実に引き続き努められたい。
44	80	始業前の児童への見守り	課題に「利用児童が少ない学校があることから、潜在的なニーズの把握」とありますが、利用の多い学校と少ない学校との間で、どのような要因の違いがあるのかを検証することも必要ではないかと思いました。利用が少ない理由が、利用する家庭側にあるのか、あるいは受け入れる地域側にあるのかによって、必要となる対策は変わってくるのではないかと感じます。	利用児童の多寡については、親の勤務形態など各家庭の状況に左右されるところが大きいのと思いますが、各学校の駅までの距離や登校開始時刻の設定の違いに影響される部分もままあると考えます。今後、利用家庭と非利用家庭のニーズの調査に努め、施策の実施に役立てていきたいと思っております。	○	(18)始業前の児童への見守り事業の充実	事前意見	始業前の児童への見守り事業の実施に当たっては、利用家庭及び非利用家庭のニーズや利用実態の把握に努め、その結果を踏まえた事業改善につなげられたい。また、シルバー人材センターとの連携に加え、地域住民や関係団体など多様な地域人材の活用を図り、安定的な見守り体制の確保に努められたい。
45	80	始業前の児童への見守り	課題において、シルバー人材センター会員不足が課題と読み取れる。シルバー人材センター頼みでよいのか。退職教員などの人材が活躍できないのだろうか。	本事業の勤務時間が早朝であることから、各校の近傍に住んでいて、早朝の時間帯に勤務可能な人材を確保することがあること。また、地域人材の活用により学校を核とした地域力の向上を期待する観点からも、シルバー人材センターに人材確保の依頼をしております。今後、人材確保が困難な地域においては、既存のシルバー人材センターだけでなく、ボランティア活動等を活用した地域住民・団体の参画も検討して参ります。	○	(18)始業前の児童への見守り事業の充実	事前意見	始業前の児童への見守り事業の実施に当たっては、利用家庭及び非利用家庭のニーズや利用実態の把握に努め、その結果を踏まえた事業改善につなげられたい。また、シルバー人材センターとの連携に加え、地域住民や関係団体など多様な地域人材の活用を図り、安定的な見守り体制の確保に努められたい。
46	84, 85	児童生徒の健全育成を支える適切な生徒指導の推進 すべての子どもたちの居場所づくりを目指した不登校支援体制の充実	「事業内容」と「実施状況」が対応していないため分かりづらい。すべての子どもたちの居場所づくりを目指した不登校支援体制の充実	今後の調査においては、「実施内容」に対する「実施状況」が明確に確認できるよう、項目の整理や記載方法を工夫するなど、資料の分かりやすさの向上に努めてまいります。	○	(22)記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
47	87	学校施設の老朽化対策の推進	「今後の方向性」のところ。「事業内容」に対して「成果」で南部小学校を除いて計画通り実施したならば、方向性として「検討」はおかしい。工事に向けて具体的に進めたい、ではないか？	学校の長寿化については、建設費の高騰などにより、計画立案時に比べ事業費が大幅に増加することが見込まれます。令和7年8月の「松戸市財政運営の基本方針」においては、事業の実施時期を再検討することとなりました。記載のとおり小金北小学校は設計委託等を実施しましたが、工事の予算計上は見送っております。以上のように、学校の長寿化については現在、事業手法なども含めた再検討をおこなっていることから、方向性を「検討」といたしました。	○	(8)教育環境の整備・学校施設の老朽化対策の推進	事前意見	教育環境の整備及び学校施設の老朽化対策の推進に当たっては、社会情勢や財政状況の変化を踏まえつつも、児童生徒に対する持続可能な教育活動の実現に向け、計画的な施設整備の推進に努められたい。そのことが、災害発生時に避難所としての機能を発揮し、地域住民の安全・安心の確保にもつながる。
48	87	学校施設の老朽化対策の推進	学校の多くは避難所になっていますので、非常に急いで対応しなければいけないと思います。どこの学校も老朽化が進み、私の住んでいる近くの学校でも体育館が雨漏りするなどの問題があります。ぜひ予算を獲得して進めていただきたいなと思います。	学校施設の更新につきましては、それぞれの学校単位で個別に考えるのではなく、地域ごとの人口動態や都市機能、公共施設の配置、将来のまちづくりなどを関連づけながら考えることが重要であると認識しております。 市長部局との連携を密にしながら、取り組みを進めてまいりたいと考えております。	○	(8)教育環境の整備・学校施設の老朽化対策の推進	第2回会議	教育環境の整備及び学校施設の老朽化対策の推進に当たっては、社会情勢や財政状況の変化を踏まえつつも、児童生徒に対する持続可能な教育活動の実現に向け、計画的な施設整備の推進に努められたい。そのことが、災害発生時に避難所としての機能を発揮し、地域住民の安全・安心の確保にもつながる。
49	89	創立50周年記念式典の開催	課題と今後の方向性について、60周年事業に向けた課題などあれば、記載したほうが良いのではないかと。	令和8年度に創立50周年記念式典を開催しましたが、60周年事業につきましては未定となります。（前回の記念式典：創立10周年学習指導課からのご依頼を受けた際は、生徒に周知し希望者を募りたいと存じます。	○	(19)周年事業の成果の継承・活用	事前意見	市立松戸高等学校の創立50周年記念事業については、事業の成果や課題を整理し、今後の取組に生かせるよう努められたい。
50	91	第二外国語の授業の推進	市立高校には、市として様々な支援を講じ、学校の改革が進んでいることを感じる。第二外国語を選択する生徒も増加していることが伺われ、生徒の学ぶ意欲の向上も見とれる。例えば、このような生徒や国際人文科の生徒を、夏季休業期間等に、学習指導課が実施している外国人児童生徒を対象とするプレスクールなどの補助に活躍していただけたらどうか。	市立松戸高等学校における第二外国語の授業の推進に当たっては、市内小中学校に在籍する外国人児童生徒のサポートなど、生徒が身につけた学びの成果を生かす機会の充実について研究されたい。	○	(20)学びの成果を生かす機会の充実	事前意見	市立松戸高等学校における第二外国語の授業の推進に当たっては、市内小中学校に在籍する外国人児童生徒のサポートなど、生徒が身につけた学びの成果を生かす機会の充実について研究されたい。
51	96	子どもたちのスポーツ、文化・芸術活動を支えるための地域の人材や団体との連携	課題において、多岐にわたる課題を内包しており～の記載は妥当か。課題に触れていない。	多岐にわたる課題とは、例えば指導者の確保や、活動に要する費用負担のあり方、活動場所への移動手段や安全面の確保、教職員の関わり方などに加え、部活動が担ってきた教育的意義や居場所としての機能をどう継承していくのか、などを指しております。	○	(22)記載内容の充実	事前意見	点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。
52	102	松戸市教育振興基本計画「学びの松戸モデル」策定	課題にもあるように、施策の着実な進捗管理が何よりも大切と考えます。「進捗管理の明確化」について、具体的な指示と実行をお願いしたい。	昨年度策定した「学びの松戸モデル（松戸市教育振興基本計画・第1期）」を着実に推進するためには、施策の進捗管理を適切に行うことが重要であると考えております。 本計画に基づく施策や事業の進捗状況を継続的に確認しながら、点検・評価を通じて課題の把握及び改善を図り、計画を着実に推進します。	○	(21)進捗管理の推進	事前意見	「学びの松戸モデル（松戸市教育振興基本計画・第1期）」の推進に当たっては、施策及び事業の進捗状況を継続的に把握・検証することともに、課題の改善につなげるなど適切な進捗管理に努められたい。

案

令和 8 年 1 0 月 2 0 日

松戸市教育委員会 御中

松戸市教育振興審議会
会長 日根野 達也

令和 7 年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に係る点検及び評価について（答申）

令和 8 年 8 月 1 9 日付け松教み総第 1 2 9 号をもって諮問のあった標記の件について、松戸市教育振興審議会条例第 2 条の規定に基づき当審議会において審議した結果、下記のとおり答申します。

なお、次年度以降の点検及び評価や事業の推進に当たっては、「2 今後に向けた提言」に記載の事項についてご留意いただきますよう申し添えます。

記

教育委員会が行った点検及び評価は妥当である。

1 審議経過

当審議會は、令和8年8月19日、松戸市教育委員会から「令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に係る点検及び評価について」諮問を受けた。

この諮問は、松戸市教育委員会が地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づく令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価を行うに当たり、同条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、松戸市教育委員会が行った点検及び評価について、当審議會に意見を求めたものである。

松戸市教育委員会では、令和2年度に策定した指針「学びの松戸モデル」に基づき毎年度作成する「主要施策」を対象として点検及び評価を行い、当該年度の「点検・評価報告書」を作成している。

当審議會における調査審議は、「令和7年度版 教育委員会の点検・評価報告書（案）」の内容を基に、松戸市教育委員会が行った点検及び評価が妥当であるか否かを調査審議するとともに、今後の点検及び評価や事業の推進に向けた提言を取りまとめることとした。

以上を踏まえ、本答申書のとおり答申を行うものである。

2 今後に向けた提言

当審議会での調査審議を踏まえ、次年度以降の点検及び評価や事業の推進に向けた提言を以下に示すので、その意を十分に汲み取るよう留意されたい。

(1) 参加・体験機会の充実

各種講座やイベントの実施に当たっては、より多くの市民・子供たちが参加又は体験できるよう、実施方法の更なる工夫に努められたい。

(2) 家庭教育支援の推進

家庭教育支援の推進に当たっては、就労している保護者や外国籍の保護者など、多様な家庭の状況に配慮しながら、デジタル技術の活用を含め、学習機会の充実に努められたい。

(3) 楽器寄附事業の推進

楽器寄附事業については、寄附者に対して寄附した楽器の活用がわかるよう講演会に招待するなど事業成果が伝わるよう工夫し、継続的な支援につながる取組を進められたい。

(4) 文化施設の有効活用

文化ホールについては、施設本来の目的である文化活動の推進を踏まえ、市民の交流や創作活動につながる施設の有効活用を推進されたい。

(5) 教育 DX の推進

教育 DX の推進に当たっては、デジタル技術を効果的に活用し、学校の業務負担軽減及び教育委員会、学校、保護者間の情報共有体制の充実に図るとともに、教職員の指導力向上や校内研修、実践共有を通じた授業改善を推進し、児童生徒の学びの質の向上に努められたい。

(6) 人権教育の推進

人権教育の推進に当たっては、学校における取組にとどまらず、家庭や地域における人権意識の醸成と理解促進に努められたい。

(7) 学校安全の確保

学校安全の確保に当たっては、関係部署及び関係機関との連携を図り、市民全体で安全を支える視点のもと、地域と一体となった安全体制の充実に努められたい。

(8) 教育環境の整備・学校施設の老朽化対策の推進

教育環境の整備及び学校施設の老朽化対策の推進に当たっては、社会情勢や財政状況の変化を踏まえつつも、児童生徒に対する持続可能な教育活動の実現に向け、計画的な施設整備の推進に努められたい。そのことが、災害発生時に避難所としての機能を発揮し、地域住民の安全・安心の確保にもつながる。

(9) 図書館サービスの充実

図書館サービスの充実に当たっては、高齢者や障害者をはじめ、多様な利用者が図書館サービスを利用できるよう、アウトリーチのあり方を含めた蔵書活用手段の多様化について調査研究を進められたい。

(10) 文化施設間連携の推進

文化・芸術活動の推進に当たっては、各施設の特性を生かしながら施設間の連携を一層推進し、市民が文化に触れる機会の更なる充実に努められたい。

(11) 学区の適正化

学区の適正化に当たっては、引き続き、その必要性や効果について十分な検討を行うとともに、関係する学校、保護者及び地域関係者への丁寧な説明に努められたい。

(12) 日本語指導の充実

日本語指導を必要とする児童生徒の増加を踏まえ、一人一人の状況に応じた支援体制の充実を図るとともに、指導人材の確保及び教育環境の整備を進めながら、継続的かつ計画的な日本語指導の推進に引き続き努められたい。

(13) 幼保小の連携

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けては、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校が相互理解を深めながら連携を推進し、子どもの学びや育ちの連続性を確保するとともに、一人一人が安心して学校生活をスタートできる環境づくりに努められたい。

(14) 部活動の地域展開

部活動の地域展開に当たっては、他自治体の取組事例も参考にしながら、本市の実情や地域特性を踏まえ、有識者、保護者等の意見を十分に聴取し、計画的に検討を進められたい。また、本市の人材や地域資源を積極的に活用し、子供たちの活動の充実と地域の活性化につながる取組を進められたい。

(15) 働き方改革の推進

学校における働き方改革の推進に当たっては、時間外在校等時間の短縮のみを目標とするのではなく、教職員の業務実態や働きがいにも配慮しながら、教職員が子供と向き合う時間の確保につながる取組を進められたい。

(16) 教職員の学びの充実

教職員の資質・能力の向上に当たっては、教職員が自身の課題や関心に応じて主体的に学ぶことができるよう、研修機会の充実や学びやすい環境づくりに引き続き努められたい。

(17) 教職員のメンタルヘルス対策の充実

教職員の心身の健康保持増進に向けては、ストレスチェックの活用を通じた早期の気づきを促すとともに、教職員が安心して相談しやすい環境づくりや支援体制の充実に引き続き努められたい。

(18) 始業前の児童への見守り事業の充実

始業前の児童への見守り事業の実施に当たっては、利用家庭及び非利用家庭のニーズや利用実態の把握に努め、その結果を踏まえた事業改善につなげられたい。また、シルバー人材センターとの連携に加え、地域住民や関係団体など多様な地域人材の活用を図り、安定的な見守り体制の確保に努められたい。

(19) 周年事業の成果の継承・活用

市立松戸高等学校の創立 50 周年記念事業については、事業の成果や課題を整理し、今後の取組に生かせるよう努められたい。

(20) 学びの成果を生かす機会の充実

市立松戸高等学校における第二外国語の授業の推進に当たっては、市内小中学校に在籍する外国人児童生徒のサポートなど、生徒が身につけた学びの成果を生かす機会の充実について研究されたい。

(2 1) 進捗管理の推進

「学びの松戸モデル（松戸市教育振興基本計画・第1期）」の推進に当たっては、施策及び事業の進捗状況を継続的に把握・検証するとともに、課題の改善につなげるなど適切な進捗管理に努められたい。

(2 2) 記載内容の充実

点検・評価報告書の作成に当たっては、事業内容と実施状況との関係性、成果や課題の根拠及び今後の方向性がわかりにくいものが散見されたことから、よりわかりやすい記載に努められたい。

以上